

植物の多様性を脅かす繁殖力旺盛な種

本来あるべきでない外来植物の侵入は、生物多様性に問題を引き起こすため駆除の対象となることは明らかである。しかし、ここに示すアカソ、ヨモギ、イタドリは、本来この生活域にあり生育していた在来種である。これが、ここ数年において急速に競争力の強い種と化し、勢力範囲を広げている。それぞれに草丈が高いため、他の草丈の低い植物の生育が失われつつある。この主たる要因が地球の温暖化による気候変動とするなら、それをくい止めることは難しい。



自然公園として不自然な景観

■花壇、植栽、移植、播種

ここでは、伊吹山三合目と山頂（自然公園法第2種特別地域）の植栽と思われる景観を掲載した。それらは、整備された花壇であったり、すでに放置された植栽であったり。また、三合目の種が山頂に移植されたり、山頂の種が三合目に移植されたり。明らかに人為的な植栽と分かるような千差万別の不自然な景観があちこちに存在する。



2008.08.16

▲ 三合目の花壇は、種々の花が鑑賞できたが、現在は放置されている。



2008.07.12

▲▼ 三合目トイレ周囲の植栽は、すでに放置されていた。



2008.07.12



2008.07.12



2008.07.12



2008.08.03

▲ 三合目トイレの放置された植栽=ヒメムカシヨモギやブタクサなど雑草の中で生育している花々 ▲

▲三合目のユウスゲ草原に咲く

■山頂周辺で人為的に移植または播種された植物



2006.08.02

▲山頂西コース花畑で一箇所に固まって咲くトモエソウ



2008.08.01

▲山小屋の花壇は良く整備され、植物ガイドの一役をかねている。



2007.07.17

▲山頂西コースで等間隔に植えられたニコウキスゲ



2007.08.06

▲ 山頂花畑で見られた園芸種と見られる花



2008.08.07

▲ 山頂花畑で見られたユウスゲ